（別記様式第１２号）（第３の８関係）

（南信州地域）

令和７年度　地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	「みんなでつくる明日の図書館」
事業主体 （連絡先）	飯田市 （飯田市立中央図書館　0265-22-0706）
事業区分	(3)教育、文化の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,324,613　円 （うち支援金：　991,000　円）

事　業　内　容

１　「としょかんマルシェ」（９月23日、参加者1,006人）

人形劇、音楽ライブ、ワークショップ等34団体の出展者の催しと、本の展示を通した交流を行った。思い出のある本を持ち寄って語り合い、交換する古本市や、館内を巡るスタンプラリーも行った。

２　「中央図書館のあゆみ展」
（11月15日～11月30日　来場者749人）

飯田市立中央図書館の110年のあゆみを振り返る展示会を行った。

３　シンポジウム「図書館の明日を語る会」
（11月29日、参加者83人）

講演会、事例発表、パネルディスカッション、グループトークを通して、これからの図書館を考え、「ちょっぴり楽しい」やってみたいことを話し合った。

４　図書館PR動画制作・上映

飯田コアカレッジ２年生のみなさんと５分程度の３つの動画を制作し、１、３の事業の中で上映、飯田市公式YouTubeにアップした。



【「図書館の明日を語る会」講演会】

【目標・ねらい】

①本を通して対話・交流する人の増加

②本を通した対話・交流から楽しさを共有し、主体的な活動を行う

事　業　効　果

①
・「としょかんマルシェ」では想定以上に多数の参加者があった。
・一連の事業を通して、本・図書館を基軸に、こどもから高齢者まで広い世代で、また多様な立場での対話・交流を生み出すことができた。

②
・一連の事業を住民と協働で開催したことにより、交流の楽しさからステップアップし、実行委員やボランティア、飯田コアカレッジの学生など主体的にかかわる住民の姿が見られ、住民の中に自ら事業を担うという意識が育まれてきた。
・「図書館の明日を語る会」では、「ちょっぴり楽しい」やってみたいことを話し合い、多くの意見が出され、「楽しそう」「やってみたい」の醸成・共有ができた。
・事業後、新たに本の紹介展示をやりたい団体があり、実現をした。

※自己評価【　Ａ　】

【理由】
・本・図書館を通して、多くの交流を創出でき、楽しさの共有ができた。
・交流の楽しさから「やってみたい」の想いを引き出し、醸成・共有することができた。
・若い世代を含む多様な世代が関わったことで、持続可能な活動につながることが期待される。

今後の取り組み

・本を通した交流の事業を今後も継続して開催していく。
・事業開催は住民協働で行い、多くの方に関わっていただくことで、本を通した交流の輪を広げていく。
・やってみたいことのある方が実現できるように、場の提供を行っていく。